

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日(土)～12日(日)

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

ワークショップ 37	
企画名	web で診断！ ～明日から使える web 診断ツールの活用法～
日時	2016年6月12日(日) 15:30～17:00
会場	第14会場 (台東区民会館 9階 特別会議室(大))
企画責任者	上原孝紀 (千葉大学医学部附属病院総合診療部)
定員	40名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>スマートフォンやタブレット端末、パソコンから手軽にインターネットに接続できる現在、診断困難例にインターネットを利用したことが一度はあるのではないのでしょうか。しかし数多の web 診断ツール、インターネットの膨大な情報量のために、適切な疾患にたどり着けないことはよく経験されます。本セッションでは、具体的症例を提示し、Web 診断ツールの有用性と限界を体験するとともに、問題解決ができないときの戦略として semantic qualifier (SQ)を学習し、high yield な情報を選択する方略を共有することを目的とします。</p>	
<p>【概要】</p> <p>Web 診断ツールを用いるワークショップですが、会場内に Wifi 接続環境がないため、各自スマートフォンなどのモバイルデータ通信端末をご用意下さい。本ワークショップは前半の基礎と後半の応用に分けてグループワークを行います。前半は、講義形式で様々な Web 診断ツールを紹介し、実際に Web 診断ツールを使ってシンプルな症例の診断を体験して頂きます。後半は、Web 診断ツールを用いた診断困難例への挑戦に移りますが、病歴情報からキーワードを抽出する方略に関してスモールグループでの討議を行い、最後に各グループでの討議内容を全体で共有します。Googling for a diagnosis. (BMJ 2006;333:1143-5)でも言及されているように、Web 診断ツールを用いれば誰でも正診率が上がるわけではなく、検索効率や引き出された情報の有効性は検索者の知識体系に依存しています。ファシリテーターとともに、情報の有用性と重み付けについて考え、日常診療に活かせる診断推論能力の向上を共に目指しましょう。</p>	